●インクルージョン・ミーティングVol.5

今年は、「ソーシャル・インクルージョン」をテーマにしています。

ソーシャル・インクルージョンとは
社会全体の中に、自立生活上何らかの支援を必要としている人々を社会の構成員として包み込んでいこうという考え方です。

平成19年度 第3回社会福祉講演会

「障害者が地域を変える」3

～差別をなくすための千葉県条例に学ぶ～

講師◎毎日新聞社夕刊編集部部長、
全日本手をつなぐ育成会理事、
千葉県障害者差別をなくすための研究会座長
野沢　和弘

議会で成立しなければ、条例は成立しませんし、施行もされません。しかし千葉県議会は大変な議会なのです。当時の県議会は保守派が7割以上占めていましたし、もうとにかく反対、反対なのです。

研究会では、なんとかこの現状を打破しなければと思って、まず政調会長さんにお願いに行きました。「読んでみたけれど、なかなか中身はいいじゃないか」と言ってくれるのですが、「あのばあさんが嫌だとみんな言っているんだよ」と。ばあさんというのは知事のことです。「でも、みんな応援してやると言っているし、何とかなるんじゃないか」と最後に言ってくれたのですが、全然なんともならなくて2月議会では流れてしまいました。

6月の議会にもういちど出せば何とかしてやるなどという声もあったのですが、「傍聴者が少ない。みんなで作ったなんて言いながらだれも傍聴に来ていないじゃないか。やはりこれは知事が一部の取り巻きを使っていい格好をしたくて作ったに違いない」なんて中傷もされました。

結局、6月議会でも猛反対されて、一時は修正しなければ否決だとも言われました。しかし、知事は条例を修正したくないのです。実は、『男女共同参画条例』のときも同じことを言われて、修正すれば通してやると言われて、泣く泣く修正したら、それまで支持していた有力な人たちが、こんな骨抜きな『男女共同参画条例』はだめだと言って、みんな知事のもとを去っていってしまった前例があるのです。だからか、知事は修正を拒んでいたのですが、こんどはマスコミが「頑なすぎないか」と知事批判を始めてしまいました。それで渋々「修正するので6月議会は審議しなくて結構です。9月議会にもう一度出すから」と言ったら、議会は「修正するような欠陥のある条例だったのか。欠陥条例を出すとは議会をなめているんじゃないか。これはいちど撤回しなければだめだ、白紙撤回だ。白紙撤回できないのであれば、知事の不信任決議案だ」と言いだしたのです。条例を通すどころか、知事の首までとられてしまいそうなところまで追いつめられてしまいました。僕らは手塩に掛けてきた条例案が自分たちの目の前でなくなってしまったので、がっくり肩を落として、なかなか傍聴席から離れられませんでした。反対した議員は傍聴席を見上げながら、ざまあみろみたいな顔をして、にやにや笑って出ていくのです。

しかし、 やはり良識派の議員たちはいました。「障害者の人たちをこんな目に遭わせていいのか。修正はさせてもらうけれども、作ってやろうじゃないか」と言い出してくれたのです。それから他議員を説得してくれて、研究会と保守派、そして県庁の人たちを間に挟んで、熾烈な交渉をしながら『障害者の差別をなくす条例』を修正していきました。ある反対派の議員は、私たちが「障害者の差別をなくす」といっているので、とんでもない過激思想だと見ていたみたいでしたが、そうじゃないことをわかってもらえ、実は私たちの側もそんなに議会のことをわかっていないことに気付かされ、 おたがい歩み寄ることによって条例ができていったのです。それは、話し合いで障害者の差別をなくすのだという条例の理念そのものが、条例の成立の過程そのものだったのです。

条例は昨年10月11日に成立。その日も僕は会社に「取材に言ってくる」と嘘を言って出掛けているのですが、たまたまNHKが取材にきていて、ニュースで使うのでコメントをくれと言うのです。僕は「千葉県内だけで流れるのならいいですよ」と気軽に応じたのですが、カメラが回っているものですから、だんだん気持ちが昂ぶってしまい、いかに自分が会社の仕事を犠牲にしてこれに懸けてきたかなんてことを熱弁してしまったわけです。するとその日の夜の全国ニュースで私の顔が画面いっぱい流れたのです。新聞社の編集局というのは朝も夜も関係ありません。当然、社では、上司も同僚も、テレビに映る僕の顔を驚きながらもしっかり見ているわけです。もう、どこかに飛ばされるのを覚悟しました。しかし、毎日新聞の社会部長は、そんな僕の顔を見ながら、こう言ったそうです。「なんだあいつ、取材に行くなんて言っておきながら、取材を受けていたのか」。その温かい上司のおかげで、今日も私の首がつながっているという次第です。（了）

※この稿は平成19年10月31日に大阪市社会福祉研修・情報センターで開催された「平成19年度　第3回社会福祉講演会」の講演内容の聴き取りから抜粋、再構成したものです。本稿は3回完結の3回目となります。